



明日へ！未来へ！！東日本へ!!! 海老名の元気をとどけよう！



参加者は、これまでに植えた場所の木々間の下草狩りをした後、ヤマボウシやコブシ、ミズキ、ヤマザクラの苗木50本を1本ずつ丁寧に植樹。その後、白井さんや内野優海老名市長、そして、風間市長が白石の木である「ブナ」の苗木を記念植樹した。

植樹ツアーは平成20年から始まり今年で4回目。今回は、「えびなの森創造事業」の最終年度で、これまでの「不伐の森」での植樹に加え、かながわ環境大使・白井貴子さんによるコンサートや映画上映会などを行い、東日本大震災で被害を受けた白石の復興祈願も兼ねたツアーとして実施された。

7月8日・9日の両日、姉妹都市の神奈川県海老名市が白石市で「植樹交流ツアー」を開催した。

植樹交流ツアー

海老名から白石市に寄付

7月8日、内野海老名市長が、海老名市体育協会、海老名飛鳥ライオンズクラブ、海老名市建設業協会、神奈川県トラック協会相模支部海老名地区会、海老名市文化団体連合会などからの白石市への寄付や海老名市庁舎内募金箱への募金などで集まった1,385,350円の寄付金目録を風間市長に手渡し、これまでに寄せられた寄付金の合計が3,573,046円となったことを報告した。

また、この日は、木内要海老名ライオンズクラブ代表が、海老名ライオンズクラブが街頭などで募金活動を行って集めた500,000円の寄付金目録を風間市長に手渡した。

内野海老名市長は「公共施設や道路などの復旧には、長い期間がかかると思いますが、海老名市から海老名の元気を届けますので、がんばってください」とあいさつ。風間市長は「海老名市や海老名市の市民の皆さんなどからの人的・物的支援、そして、白石復興のための寄付金に感謝しています。必ず復興することをお約束します」と感謝の言葉を述べた。



▲寄せられた応援メッセージ



▲木内海老名ライオンズクラブ代表から寄付金目録を受け取る風間市長



セコム工業が工業団地に自然と調和した最先端工場を新設

6月29日、白石インター工業団地に工場を新設する防犯・防災関連機器製造の「セコム工業株式会社（新開至代表取締役社長）」と本社工場社屋建設に係る立地協定締結式を行った。

同社は警備保障会社「セコム株式会社」のグループ会社で、昭和52年10月、福岡蔵本に設立。東日本大震災で事務所棟が甚大な被害を受けたため、市内4カ所に分かれて業務を続けながら、将来的な事業拡大も見据え、県外への移転も視野に用地を探していた。そして、「34年の支援を得た白石で再起を目指す」として、2区画ある工業団地のうち、現在の3倍にあたる3万6千平方メートルの区画に、新工場を建設することを決定。新工場は鉄骨一部2階建てで延べ床面積は約2万平方メートル。総工費は25億円、11月に着工し、来年12月に完成する予定である。

防犯・防災関連機器の生産機能を集約し、将来的には画像関連事業などの拡大を図る方針。初年度の従業員は275人で、初年度の売り上げは100億円を想定し、5年後は350人で200億を目指す。

締結式で風間市長は「地域経

済の活性化はもとより、地元雇用の創出に大きな期待を寄せています。早期操業に向け建設工事などが円滑に進むよう、関係機関と連絡を密にし、全力で支援します」とあいさつ。新開社長は「自然豊かで東北自動車道白石インターチェンジに直結するなど交通の便も良いこの地で、自然と調和した最先端の工場を造りたいと思います」とあいさつした。

また、宮城県産業立地推進課猪野課長は「スピード感あふれる決断に敬意を表します。復興への兆しで明るい話題であり、地域経済の活性化や地元雇用の確保・創出はもとより、県民の前に進むようとする強い意思、姿勢を必ず後押しするものと確信しています。県は企業や県民一人一人の復興へ向けた取り組みを全力で支援します」と知事からのメッセージを寄せた。

34年の歴史とともにこれからも白石で 立地協定締結式

白石インター工業団地 (旧名称：福岡深谷工業団地)

●問い合わせ先 企業立地推進課 ☎22-1327
●ホームページURL <http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/kiritu/>